



労働政策研究報告書 No. 87

2007

JILPT : The Japan Institute for Labour Policy and Training

中学生、高校生の職業レディネスの発達

— 職業レディネス・テスト標準化調査の分析を通して —

労働政策研究・研修機構

中学生、高校生の職業レディネスの発達

— 職業レディネス・テスト標準化調査の分析を通して —

まえがき

「職業レディネス・テスト」は、1972年に、当研究機構の前身である職業研究所によって開発された検査である。中学生、高校生の職業的な発達の準備度、すなわち「職業レディネス」を測定することを目的としており、公表以来、中学校、高等学校での進路指導、職業指導に広く活用されるようになった。

初版の発行にともなってまとめられた職業研究所の研究紀要には、研究開発の目的と背景として次のようなことが書かれている。「1970年代は、激しい変化の時代であるといわれる。個人の欲求は多様化し、変容する。一方、職業の世界も、質、量両面にわたって変化を遂げていく。このような多様化と変化のときこそ、進路指導（職業指導）の真価が問われるときであり、進路指導の基本理念にそった実践活動の展開が期待される時代でもある」（職業研究所,1974）。この後、検査の改訂は1989年に実施されたが、初版から35年、改訂版の発行からも18年を経て、ここで述べられた1970年代の時代の変化は一層その傾向を強めて今日に至っている。特に近年のめざましい情報化社会の発展は、産業や職業の世界を大きく変化させただけでなく、若者の生活スタイルや価値観や行動にも大きな影響を及ぼしている。早期離職、非正規就業の増大など、若者と職業選択をめぐるさまざまな問題が起こっている。

「職業レディネス・テスト」の改訂は、このような社会全体、若者の意識の変化を踏まえ、2003年の秋から着手された。そして、2006年に完成、公表された。開発理念は「自己理解を通じて職業探索へ、職業探索を通じて自己理解へ」であり、これは初版、第2版を通して一貫して不変である。ただ、時代の流れとともに、中学生、高校生という早い時期からの進路指導や職業意識を啓発するような試みが必要な時代になっている。

本報告書は、3年半にわたって実施された「職業レディネス・テストの改訂に関する研究」の過程で得られた資料を標準化調査の分析を中心としてまとめたものである。標準化調査では、サンプリングの手続きを踏まえた後、全国の中学生約11,000名、高校生約17,000名のデータを収集した。このような形で中学生、高校生の職業興味を扱った大規模な調査は近年、他に実施されていないことから貴重なデータである。現代の中学生、高校生の職業興味あるいは職業レディネスの現状をありのままに捉え、伝えることができれば幸いである。

最後になるが、「職業レディネス・テスト」の改訂に際してご協力をいただいた全国各地の中学校、高等学校、その他関係者各位に対し、深甚なる謝意を表するものである。

2007年3月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 小 野 旭

執筆担当者（執筆順）

氏名	所属	執筆章
館 暁夫	西南学院大学 人間科学部 教授	第1章
室山 晴美	労働政策研究・研修機構 職業相談・就職支援部門 主任研究員	概要、第2～4章、 9章、総括
上市 貞満	労働政策研究・研修機構 労働大学校 助教授	第5章
岩脇 千裕	労働政策研究・研修機構 職業相談・就職支援部門 研究員	第6章、7章
安達 智子	大阪教育大学 教養学科 講師	第8章
松本 純平	労働政策研究・研修機構 職業相談・就職支援部門 統括研究員	第10章
笹 のぶえ	東京都立稔ヶ丘高等学校 主幹	第11章
杉森 共和	東京都立葛飾総合高等学校 教諭	第12章
本間 啓二	日本体育大学 体育学部 助教授	第13章

「職業レディネス・テスト改訂のための委員会」（委員会委員一覧 作業部会別）

<手引き部会>

館 暁夫	西南学院大学 人間科学部 教授	(座長)
上市 貞満	労働政策研究・研修機構	労働大学校 助教授
松本 純平	労働政策研究・研修機構	職業相談・就職支援部門 統括研究員
岩脇 千裕	労働政策研究・研修機構	職業相談・就職支援部門 研究員 (2006.4～)

<尺度部会>

安達 智子	大阪教育大学 教養学科 講師
室山 晴美	労働政策研究・研修機構 職業相談・就職支援部門 主任研究員
亀井 美弥子	首都大学東京大学院 (臨時研究協力員 2004.6～2004.9)
劉 濱	東京工業大学大学院 (臨時研究協力員 2005.2～2005.9)

<ワークシート部会>

本間 啓二	日本体育大学 体育学部 助教授
笹 のぶえ	東京都立稔ヶ丘高等学校 主幹
杉森 共和	東京都立葛飾総合高等学校 教諭

<オブザーバー>

山形 時雄	社団法人 雇用問題研究会 相談指導部 部長
-------	-----------------------

目 次

概要	3
第 I 部 改訂の概要	
第 1 章 研究の背景・目的	9
1-1 「職業レディネス・テスト」とは	9
1-2 改訂の背景	10
1-3 目標の設定	11
1-4 方法	12
第 2 章 予備調査の概要	14
2-1 予備調査 I (大学生調査)	14
2-2 予備調査 II (中学生、高校生調査)	16
第 3 章 標準化調査の概要	18
3-1 目的	18
3-2 方法	18
3-3 結果	19
第 4 章 「職業レディネス・テスト第 3 版」の完成	25
4-1 手引き、問題用紙、回答用紙、ワークシートの作成	25
4-2 「職業レディネス・テスト第 3 版」の内容	25
4-3 第 2 版からの主な改訂点	30
第 II 部 基礎分析編	
第 5 章 中学生の職業レディネス	33
5-1 本章の目的	33
5-2 分析の対象	33
5-3 分析方法と結果	33
5-4 まとめ	40
第 6 章 高校生の職業レディネス	45

6-1	本章の目的	45
6-2	分析の対象	45
6-3	分析方法と結果	45
6-4	まとめ	53
第7章	第2版と比較した高校生の職業レディネスの変化	59
7-1	本章の目的	59
7-2	分析対象	59
7-3	分析方法と結果	60
7-4	まとめ	69
第8章	A、B、C検査における各尺度の関連性、および、興味と自信の差異	71
8-1	本章の目的	71
8-2	分析の対象	71
8-3	分析方法と結果	71
8-4	まとめ	81
第9章	職業興味が発達指標としての分化度の検討	82
9-1	本章の目的	82
9-2	分析対象	82
9-3	分析方法と結果	83
9-4	まとめ	90
第10章	特別集計に関する分析	93
10-1	本章の目的	93
10-2	分析対象	94
10-3	分析方法と結果	94
10-4	まとめ	105
第Ⅲ部	応用分析編	
第11章	高等学校における学科と職業志向性、基礎的志向性の関連の検討	109
11-1	本章の目的	109
11-2	分析対象	109
11-3	分析方法と結果	110

11-4	まとめ	122
第 12 章	好きな科目、嫌いな科目と職業興味との関連の検討	124
12-1	本章の目的	124
12-2	分析対象	124
12-3	調査方法と結果	124
12-4	まとめ	140
第 13 章	進路決定度、希望職業の有無と分化度との関連の検討	142
13-1	本章の目的	142
13-2	分析対象	142
13-3	分析方法と結果	142
13-4	まとめ	156
総括	得られた知見と今後の課題	158
付録		
1	調査票、調査項目	165
(1)	職業レディネス・テスト標準化調査票	165
(2)	標準化調査回答用紙	177
(3)	職業レディネス・テスト第 3 版検査項目	179
2	基礎統計資料	181
(1)	標準化規準集団の構成	181
(2)	各尺度における学校、学年、男女別平均値と標準偏差	182
(3)	第 3 版各検査項目に対する中学生の全体、学年別、男女別の回答度数	184
(4)	第 3 版各検査項目に対する高校生の全体、学年別、男女別の回答度数	192

